

大学等名	上武大学
プログラム名	データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

ビジネス情報学部

③ 修了要件

ビジネス情報学部(スポーツ健康マネジメント学科・国際ビジネス学科):「情報社会とコンピュータ」2単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数

1 科目

2 単位

履修必須の有無

令和8年度までに履修必須とする計画

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報社会とコンピュータ	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報社会とコンピュータ	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報社会とコンピュータ	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報社会とコンピュータ	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報社会とコンピュータ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 キーワード: Society5.0、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ駆動型社会、データ量の増加、第4次産業革命、複数技術を組み合わせたAIサービス、人間の知的活動とAIの関係性、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 『情報社会とコンピュータ』 (第3回)「社会で起きている変化」
	1-6 キーワード: AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーション等)、AI最新技術の活用例(強化学習) 『情報社会とコンピュータ』 (第6回)「日常生活の中の人工知能」 (第7回)「機械学習のしくみ」 (第8回)「コンピュータからのおすすめ情報」 (第9回)「推薦システムのしくみ」
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 キーワード: 構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)、データのメタ化、調査データ、人の行動のログデータ、1次データ、2次データ、データ作成(ビッグデータ)、データのオープン化(オープンデータ) 『情報社会とコンピュータ』 (第1回)「データを取り扱うハードウェア」 (第4回)「企業におけるデータ活用」 (第11回)「インターネットとアクセス解析」 (第12回)「データを読む・説明する」
	1-3 キーワード: データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど、知識発見、判断支援など 『情報社会とコンピュータ』 (第3回)「社会で起きている変化」
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 キーワード: データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見 データ可視化: 複合グラフ、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化 非構造化データ処理: 言語処理 特化型AIと汎用AI、AIとビッグデータ、認識技術 『情報社会とコンピュータ』 (第2回)「データを取り扱うソフトウェア」 (第3回)「社会で起きている変化」 (第5回)「データの前処理と分析のプロセス」 (第6回)「日常生活の中の人工知能」 (第11回)「インターネットとアクセス解析」
	1-5 キーワード: データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) 流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介 『情報社会とコンピュータ』 (第3回)「社会で起きている変化」 (第5回)「データの前処理と分析のプロセス」

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	キーワード: ELSI、個人情報保護、EU一般データ保護規則 (GDPR)、オプトアウト データ倫理: 改ざん、盗用、プライバシー保護 AI社会原則 (公平性、透明性、人間中心の判断)、データバイアス、アルゴリズムバイアス AIサービスの責任論 『情報社会とコンピュータ』 (第6回)「日常生活の中の人工知能」 (第14回)「情報セキュリティとAI活用における留意事項」 (第15回)「個人情報の保護と活用」
	3-2	キーワード: 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性 匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意のある情報搾取 情報漏洩によるセキュリティ事故の事例紹介 『情報社会とコンピュータ』 (第14回)「情報セキュリティとAI活用における留意事項」 (第15回)「個人情報の保護と活用」
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	キーワード: データの種類 (量的変数、質的変数) データの分布 (ヒストグラム) と代表値 (平均値、中央値、最頻値)、 代表値の性質の違い (実社会では平均値 = 最頻値ではないことが多い) データのばらつき (分散、標準偏差、偏差値)、層別の必要なデータ、相関と因果 (相関係数) 母集団と標本抽出 (アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) クロス集計表、統計情報の正しい理解 『情報社会とコンピュータ』 (第12回)「データを読む・説明する」 (第13回)「データを扱う」
	2-2	キーワード: データ表現 (棒グラフ、折線グラフ、散布図)、データの図表表現 (チャート化) 優れた可視化事例の紹介 『情報社会とコンピュータ』 (第10回)「情報の可視化」
	2-3	キーワード: データの集計 (和、平均)、データの並び替え、データ解析ツール (スプレッドシート) 表形式のデータ (csv) 『情報社会とコンピュータ』 (第2回)「データを取り扱うソフトウェア」

⑪ プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> デジタル社会において求められる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識と技術を身につけ、日常生活、企業活動、地域活動の場で使うことができる。 学んだ知識と技術を使う際には、エビデンスに基づき、倫理的配慮のもと、人間中心の適切な判断と説明ができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業 (授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
科目「情報社会とコンピュータ」の第7回「機械学習のしくみ」の中で、生成AI (対話型人工知能) について解説している。

大学等名	上武大学
プログラム名	データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

看護学部

③ 修了要件

看護学部:「情報通信技術の基礎」:1単位30時間を修得すること。

必要最低科目数・単位数

1 科目

1 単位

履修必須の有無

令和5年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 「現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報通信技術の基礎	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報通信技術の基礎	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報通信技術の基礎	1	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報通信技術の基礎	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報通信技術の基礎	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	キーワード: Society5.0、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ駆動型社会、データ量の増加、第4次産業革命、複数技術を組み合わせたAIサービス、人間の知的活動とAIの関係性、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方 『情報通信技術の基礎』 (第2回)「社会で起きている変化」
	1-6	キーワード: AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーション等)、AI最新技術の活用例(強化学習) 『情報通信技術の基礎』 (第10回)「人工知能とは」 (第11回)「人工知能と現代社会」
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	キーワード: 構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)、データのメタ化、調査データ、人の行動のログデータ、1次データ、2次データ、データ作成(ビッグデータ)、データのオープン化(オープンデータ) 『情報通信技術の基礎』 (第1回)「PCの基礎」 (第3回)「インターネット」 (第12回)「データの表現」
	1-3	キーワード: データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど、知識発見、判断支援など 『情報通信技術の基礎』 (第2回)「社会で起きている変化」
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	キーワード: データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見 データ可視化: 複合グラフ、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化 非構造化データ処理: 言語処理 特化型AIと汎用AI、AIとビッグデータ、認識技術 『情報通信技術の基礎』 (第2回)「社会で起きている変化」 (第3回)「インターネット」 (第11回)「人工知能と現代社会」
	1-5	キーワード: データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) 流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介 『情報通信技術の基礎』 (第2回)「社会で起きている変化」 (第14回)「ヘルスケアとデータ」

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	キーワード: ELSI、個人情報保護、EU一般データ保護規則 (GDPR)、オプトアウト データ倫理: 改ざん、盗用、プライバシー保護 AI社会原則 (公平性、透明性、人間中心の判断)、データバイアス、アルゴリズムバイアス AIサービスの責任論 『情報通信技術の基礎』 (第6回)「個人情報とプライバシー」 (第7回)「情報倫理(コミュニケーション)」 (第8回)「情報倫理(安全性・トラブル事例)」
	3-2	キーワード: 情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性 匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意のある情報搾取 情報漏洩によるセキュリティ事故の事例紹介 『情報通信技術の基礎』 (第4回)「情報セキュリティの概要」 (第5回)「情報セキュリティの管理」
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	キーワード: データの種類 (量的変数、質的変数) データの分布 (ヒストグラム) と代表値 (平均値、中央値、最頻値)、 代表値の性質の違い (実社会では平均値 = 最頻値ではないことが多い) データのばらつき (分散、標準偏差、偏差値)、層別の必要なデータ、相関と因果 (相関係数) 母集団と標本抽出 (アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) クロス集計表、統計情報の正しい理解 『情報通信技術の基礎』 (第12回)「データの表現」
	2-2	キーワード: データ表現 (棒グラフ、折線グラフ、散布図)、データの図表表現 (チャート化) 不適切なグラフ表現 優れた可視化事例の紹介 『情報通信技術の基礎』 (第13回)「データの説明」
	2-3	キーワード: データの集計 (和、平均)、データの並び替え、データ解析ツール (スプレッドシート) 表形式のデータ (csv) 『情報通信技術の基礎』 (第9回)「データの処理」

⑪ プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)

- ・デジタル社会において求められる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識と技術を身につけ、日常生活、企業活動、地域活動の場で使うことができる。
- ・学んだ知識と技術を使う際には、エビデンスに基づき、倫理的配慮のもと、人間中心の適切な判断と説明ができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
該当なし

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 1524 人 女性 529 人 (合計 2053 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
ビジネス情報学部	1,737	410	1,640	347	322											347	21%
看護学部	316	100	400	64	64											64	16%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	2,053	510	2,040	411	386	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	411	20%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

 (1) AI戦略2019を受け、本学における初級レベルの数理・データサイエンス・AI教育とその点検・評価に係る事項
 (2) 前号に必要となる施設設備、教育機器備品類などの検討
 (3) その他本学の数理・データサイエンス・AI教育に関連する事項等

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	20%	令和6年度予定	43%	令和7年度予定	65%
令和8年度予定	90%	令和9年度予定	93%	収容定員(名)	2,040

具体的な計画

(ビジネス情報学部)

プログラム対象科目は、国際ビジネス学科、スポーツ健康マネジメント学科スポーツマネジメントコース／スポーツトレーナコースにおいては必修科目であり、全学生が履修する。スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース／救急救命士コースにおいては教養選択科目となっているが、今後のカリキュラムの見直しの際には全学必修を予定としたい。

(看護学部)

プログラム対象科目は、看護学部においては必修科目であり、全学生が履修する。年度進行に伴い当プログラムの履修率は100%となる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラム対象科目は、学部・学科に関係なく学生全員が受講できる体制が整っている。学部ごとに受講可能な講義が設定されているため、数理・データサイエンス・AIに関係する講義を受講する学生は全員受講することが可能である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新入生ガイダンスでプログラム対象科目となる必修科目についての説明を行う。
大学ホームページや履修登録システムを通じてプログラムの紹介を行う。
新入生ガイダンスや大学ホームページによりデータサイエンスの重要性について学生に理解させる。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

プログラム対象科目はビジネス情報学部国際ビジネス学科、スポーツ健康マネジメント学科スポーツマネジメントコース／スポーツトレーナーコース、看護学部における1年生の必修科目としている。ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース／救急救命士コースにおいては教養選択科目となっているが、入学時のオリエンテーション時に、きめ細かい履修登録指導が行われている。また、ゼミ単位での入学時におけるガイダンスが実施され、1人ひとりを対象とした履修登録指導が行われている。履修登録システム(STEP)を利用することにより、必修科目にあたっては漏れなく履修登録できる仕組みが整っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

プログラム担当教員がオフィスアワーを設け、学生から質問や相談を受け付けている。オフィスアワーについては、授業の初回に担当教員により説明を行っている。

大学等名 上武大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

上武大学データサイエンスセンター、内部質保証委員会

(責任者名) 樽井勇之

(役職名) データサイエンスセンター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	履修登録システムSTEPの活用により、受講者の履修・修得状況を把握することができる。令和5年度における本教育プログラムの履修者数は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科266人、ビジネス情報学部国際ビジネス学科81人、看護学部看護学科64人であった。修得者数は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科249人、ビジネス情報学部国際ビジネス学科73人、看護学部看護学科64人であった。
学修成果	内部質保証委員会で実施している授業評価アンケート調査のうち「授業内容を理解できたか」の項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができる。その結果を上武大学データサイエンスセンターと連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラム受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、学生の理解度を分析している。授業評価アンケートの設問「授業内容を理解できたか」という回答をみると、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科では70%、国際ビジネス学科では78%、看護学部看護学科では82%であった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	内部質保証委員会で実施している授業評価アンケートにより、他の学生への推奨度を推察している。授業評価アンケートの設問「授業は有意義だったか」という回答から推察している。「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科では70%、国際ビジネス学科では82%、看護学部看護学科では86%であった。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成するビジネス情報学部の科目「情報社会とコンピュータ」と看護学部の科目「情報通信技術の基礎」についてはビジネス情報学部国際ビジネス学科、スポーツ健康マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース/スポーツトレーナーコース、看護学部における1年生の必修科目としている。ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース/救急救命士コースにおいては教養選択科目となっているが、今後のカリキュラムの見直しの際には全学必修を予定している。ビジネス情報学部国際ビジネス学科、スポーツ健康マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース/スポーツトレーナーコース、看護学部においては必修科目であり、履修者数、履修率は向上している。本教育プログラムは2023年度から実施しているため2026年度には90%以上の学生が修了できる予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本教育プログラムは2023年度の入学生より実施を始めたため修了者はいるが、卒業生はまだいない状況である。ビジネス情報学部国際ビジネス学科経営・経済コースにはITアドバンスクラスが設置されている。IT(情報技術)やデータサイエンスに関する知識や技術を身につけた学生がおり社会で活躍している卒業生もいる。2025年度からはデータサイエンスクラスの開設が予定されている。2023年度入学生より実施している本教育プログラムを履修した学生や2025年度から開設されるデータサイエンスクラスの学生が卒業後に活躍していくことが期待される。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学が毎年実施している就職支援のための学内セミナーに参加している企業に対して本教育プログラム内容についての意見を伺っている。本学の教育プログラムの内容については良好な回答が得られている。例えば「産業界ではITやデータサイエンスの分野や実務上必須のスキルであり、大学で高度なリテラシーを身につけた人材を輩出していたらと産業界の発展に繋がる」などの意見があった。さらに、産業界からみて大学のデータサイエンス教育に求められることについて意見を伺い、上武大学データサイエンスセンターにてプログラムの改善に活用している。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本教育プログラムを担当する教員が、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムに準拠した教科書を執筆している。教科書のタイトルは「新入生のためのデータサイエンス入門」(共立出版、2023年)である。図解を多用することにより、学ぶことの楽しさや学ぶことの意義を含めた内容としている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本教育プログラムを担当する教員が執筆した教科書を利用することにより、分かりやすい授業を実施している。ビジネス情報学部と看護学部の学生に対し、全学的に同じ教科書を利用することにより内容・水準を維持している。また、授業評価アンケートを上武大学データサイエンスセンターで分析することにより授業内容の向上を図っている。</p>

情報社会とコンピュータ		講義 2単位	教授 梅井 勇之	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目 教職科目	科目ナンバリング	21200106 25310106	

1. 授業のねらい・概要

デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI (Artificial Intelligence) を日常生活、企業活動、地域活動の場で使いこなすことができる知識・技能を身につけることがねらいである。現在、あらゆる分野でAIが搭載され、日常生活のさまざまな場面でも利活用が進んでいる。本科目を学ぶことによって、このような技術を取り扱う際にも、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思で利活用でき、生活をより豊かなものにすることができる。

本科目は、文科省の数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) の知識全般を身に付けることができる。

2. 授業の進め方

講義中心に進めるが理解を深めるために定期的に小テストを行う。

3. 授業計画

1. データを取り扱うハードウェア	9. 推薦システムのしくみ
2. データを取り扱うソフトウェア	10. 情報の可視化
3. 社会で起きている変化	11. インターネットとアクセス解析
4. 企業におけるデータ利活用	12. データを読む・説明する
5. データの前処理と分析のプロセス	13. データを扱う
6. 日常生活の中の人工知能	14. 情報セキュリティとAI利活用における留意事項
7. 機械学習のしくみ	15. 個人情報の保護と活用
8. コンピュータからのおすすめ情報	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

課題として出題された内容の復習に1時間程度必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題を出題後にヒントを与え、次回授業時に解答のポイントを説明する。定期試験については模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

情報および情報技術を理解し、大学に設置されているコンピュータ利用が円滑かつ適正に行えることを目的とする。

7. 成績評価の方法・基準

課題（50%）、期末試験の結果（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書：「新入生のためのデータサイエンス入門」、共立出版、2023年

9. 受講上の留意事項

講義と同時に課題を出題するので、欠席しないこと。また、講義の内容を理解するためにノートをきちんととること。理解できないときは積極的に質問してください。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

情報社会とコンピュータ		講義 2単位	准教授 関川 弘	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11120103 12220121 13220103	

1. 授業のねらい・概要

コンピュータに関する技術は急速に進歩している。今日では人工知能を活用した新しいサービスが次々登場し社会のあらゆる分野に浸透しつつある。このような情報社会において、日常生活、企業活動、地域活動をスムーズに行うためには、コンピュータの基本的な仕組みを学ぶとともに、人工知能やデータの利活用に関する理解を深める必要がある。本講義では、数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルの素養を身に付ける。

2. 授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回、講義後に授業内容のサマリーの提出を求め、その内容について講義でディスカッションする。また、海外の文献や雑誌に掲載されている英語による最新記事や動画を用いて関連動向について検討する。

3. 授業計画

1. データを取り扱うハードウェア	9. 推薦システムのしくみ
2. データを取り扱うソフトウェア	10. 情報の可視化
3. 社会で起きている変化	11. インターネットとアクセス解析
4. 企業におけるデータ利活用	12. データを読む・説明する
5. データの前処理と分析のプロセス	13. データを扱う
6. 日常生活の中の人工知能	14. 情報セキュリティとAI利活用における留意事項
7. 機械学習のしくみ	15. 個人情報の保護と活用
8. コンピュータからのおすすめ情報	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として1時間程度、インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後30分程度、学習した内容をどれだけ多く、正確に説明・解説できるか自身で試みる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

回答のポイント、及び出題の目的を説明した資料を配布する。また、毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合、次回講義で、いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスを行う。

6. 授業における学修の到達目標

情報社会とコンピュータ、データサイエンスに関する理解を深め、関連する時事トピックや書籍を理解できるようになる。また、コンピュータやデータを適切に利用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）と毎回講義後に提出を求める講義サマリー（30%）、授業への貢献度（20%）で評価する。サマリーについては、どれだけ多く思考したかを基準に評価する。

8. テキスト・参考文献

資料を毎回プリント配布する。
教科書 新入生のためのデータサイエンス入門、共立出版、2023
参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

情報社会のプラス面とマイナス面を理解しバランスの取れた見識を養うこと。また、新聞やインターネットを通して新しい情報技術とその可能性に対する関心を持つこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、情報システム開発会社における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

情報通信技術の基礎	1年・前期	1単位 30時間	教授 豊田修一
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31210111

1. 授業のねらい・概要

本講義は、データやAIの利活用が本格化する時代に対応できるよう、PC、インターネットを活用した情報伝達に関するスキルを習得する。また、個人情報の倫理的配慮や情報セキュリティについて理解し、知識・技術と実践を繋げることをめざす。さらに、Society5.0や人工知能など現代社会と情報技術の関係、データサイエンスの基礎としてデータの利活用について学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 人工知能の社会での活用例について知ることができる (D-5)。
2. インターネットや情報セキュリティの基本的事項を知ることができる (D-5)。
3. 個人情報の取り扱いや著作権の基礎的事項を説明できる (D-5)。
4. データ社会の特徴をすることができる (D-5)。

3. 授業の進め方

演習と講義の混在する講義であるが、学生の主体的な取り組みを期待する。

4. 授業計画（講義）・・・（講義）（演習）（講義・演習）（実習/実技）のどれかを記入する

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	PCの基礎	講義	予習：教科書の1.1を読む 復習：PC技術の現状をまとめる	豊田修一
2	社会で起きている変化	講義	予習：教科書の2.1～2.2を読む 復習：Society5.0とSociety4.0の違いをまとめる	豊田
3	インターネット	講義	予習：教科書の6.3を読む 復習：インターネットについてまとめる	豊田
4	情報セキュリティの概要	講義	予習：教科書の14.1を読む 復習：情報セキュリティ3原則をまとめる	豊田
5	情報セキュリティの管理	講義	予習：教科書の14.2を読む 復習：セキュリティポリシーをまとめる	豊田
6	個人情報とプライバシー	講義	予習：教科書の15.1を読む 復習：プライバシーについてまとめる	豊田
7	情報倫理（コミュニケーション）	講義	予習：ハンドブックのコミュニケーションを読んでおく 復習：情報コミュニケーションをまとめる	豊田
8	情報倫理（安全性・トラブル事例）	講義	予習：ハンドブックの安全性・トラブル事例を読んでおく 復習：オンラインテストの目標到達	豊田
9	データの処理	講義	予習：教科書の1.2を読む 復習：データベースについてまとめる	豊田
10	人工知能とは	講義	予習：教科書の4.1～4.3を読む 復習：AIやデータサイエンスについてまとめる	豊田
11	人工知能と現代社会	講義	予習：教科書の5.4を読む 復習：身の回りのAIを探してみる	豊田
12	データの表現	講義	予習：教科書の6.1, 7.1～7.6を読む 復習：統計の長所・短所をまとめる	豊田
13	データの説明	講義	予習：教科書の8.1～8.3を読む 復習：グラフの使い方をまとめる	豊田

14	ヘルスケアとデータ	講義	予習：教科書の13.1～13.3を読む 復習：NDBとKDBについて、まとめる	豊田
15	まとめ	講義	予習：これまでの講義を振りかえる 復習：セキュリティを振り返る	豊田

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）80%，オンラインテスト20%で，総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：(1) 豊田、樽井 「新入生のためのデータサイエンス入門」 共立出版 978-4320-125728
(2) 「情報倫理ハンドブック（改訂版）」 n o a 出版

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲および事前事後学修（学修課題）について、最低1時間の予習及び復習を行なう。

8. 受講上の留意事項（先修条件がある場合はここに記入する）

なし。

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題等は原則として講義中に説明を行う。試験は終了後口頭にて解説を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

企業におけるシステム技術者としての実務経験を活かして，講義を行う。

ビジネス情報学部国際ビジネス学科・カリキュラムツリー

	1年	2年	3年	4年
コースの必修科目	フレッシュャーズゼミA フレッシュャーズゼミB コンピュータリテラシA コンピュータリテラシB 情報社会とコンピュータ 経済学基礎 経営学基礎 会計学基礎 必修英語A 必修英語B 言語コミュニケーションA 言語コミュニケーションB	教養ゼミ トップマネジメント講話 選択語学A 選択語学B キャリアデザイン プレゼンテーション	専門ゼミA 専門ゼミB	卒業研究
コースの選択必修科目	<国際ビジネスコース> 日本とアジアの経済 国際交流プログラム グローバル化と国際社会A グローバル化と国際社会B <会計ファイナンスコース> 簿記論 ファイナンス入門 会計学総論 <経営・経済コース> 統計学 経営数学	経営戦略論 国際経済論 国際経営論 国際マーケティング論 国際金融論 国際取引法A 国際取引法B 世界経済史A 世界経済史B 会計アドバンス演習 FP概論 租税法概論 財務会計論A 財務会計論B 工業簿記A 工業簿記B 管理会計論A 管理会計論B 経営管理総論A 経営管理総論B 経営組織論 経営情報論 経営戦略論 経済政策論 情報社会と情報倫理 オペレーションズリサーチ コンピュータ概論 マーケティング論 マクロ経済学 ミクロ経済学		
コースの専門選択科目	<国際ビジネスコース> グローバルコミュニケーション <会計ファイナンスコース> 3級商業簿記 国際交流プログラム グローバルコミュニケーション <経営・経済コース> 簿記論 3級商業簿記 IIバポート演習 基本情報技術者演習 国際交流プログラム グローバルコミュニケーション	日本経営論 経営情報論 経営組織論 マーケティング論 マーケティングリサーチ アジア地域ビジネス論A アジア地域ビジネス論B EU経済論 米国経済論 マクロ経済学 ミクロ経済学 国際マクロ経済学A 国際マクロ経済学B グローバル経済と中小企業A グローバル経済と中小企業B 開発経済学 経済政策論 財政学A 財政学B 国際会計論A 国際会計論B 租税法概論 所得税法 法人税法 消費税法 金融商品取引法 国際租税法 証券投資論 上級英語A 上級英語B 相続税法 所得税法 法人税法 消費税法 金融商品取引法 国際租税法 国際会計論A 国際会計論B パーソナルファイナンス論 コーポレートファイナンス論 コーポレートファイナンス論 保険論 年金論 証券投資論 経営管理総論A 経営管理総論B コーポレートカルチャー論A コーポレートカルチャー論B 中小企業論A 中小企業論B 金融論A 金融論B 国際金融論 商法入門 会社法A 会社法B 国際取引法A 国際取引法B 経済政策論 国際経済論 経済思想史 マクロ経済学 ミクロ経済学 財政学A 財政学B 情報社会と情報倫理 コンピュータ概論 日本経済論A 日本経済論B 原価計算論 経営分析 国際経済論 世界経済史A 世界経済史B 日本経営論 国際経営論 マーケティングリサーチ 生産管理論 中小企業論A 中小企業論B 開発経済学 財政学A 財政学B 国際金融論 財務会計論A 財務会計論B 租税法概論 プログラム言語A プログラム言語B プログラム言語C プログラム言語D 応用ソフトウェア データベース論 データベース演習 Webデザイン システム設計 デザイン論 グラフィックデザイン 図形と画像の処理 マルチメディアデザイン 画像情報学 マルチメディア論 日本経済論A 日本経済論B 原価計算論		
教養選択科目	日本文化概論 文化交際史 社会科学の基礎A 社会科学の基礎B 日本国憲法 民法と生活A 民法と生活B ビジネス法学入門 環境科学概論 地球科学概論 地球環境変遷史 群馬の自然環境 数学総合演習 体育A 体育B 公務員試験対策ゼミA 公務員試験対策ゼミB 海外研修 スポーツマネジメント研修 海外語学研修 社会貢献実践 基礎日本語 基礎日本語 日本事情入門A 日本事情入門B 落語に見る古典と現代A 落語に見る古典と現代B			
自由科目			インターンシップ	

ディプロマポリシー

- (1)「国際ビジネス」「会計ファイナンス」及び「経営・経済」の分野の学修に基づき、国際化・情報化が進む現代社会において、諸問題を解決しうる幅広い知識と国際感覚を有する。
- (2)様々なビジネスの現場において必要とされる実践的な能力を有する。
- (3)修得した知識・技能をもとに、論理的に考える力やコミュニケーション力を活用することで、社会人としての高い基礎力を有する。

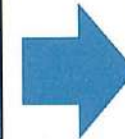


ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科スポーツマネジメントコース/スポーツトレーナーコース・カリキュラムツリー

	1年	2年	3年	4年
コースの必修科目	フレッシュヤーズゼミA フレッシュヤーズゼミB コンピュータリテラシA コンピュータリテラシB 情報社会とコンピュータ 経済学基礎 経営学基礎 マーケティング基礎 スポーツ概論 必修英語A 必修英語B	教養ゼミ トップマネジメント講話 選択語学A 選択語学B キャリアデザイン	専門ゼミA 専門ゼミB	卒業研究
コースの選択必修科目	<p><スポーツマネジメントコース></p> スポーツ社会学 簿記論 会計学基礎	ヘルスマネジメント スポーツ行政論 スポーツマネジメント論 地域スポーツ論 スポーツイベント論 メディアスポーツ論 スポーツマーケティング スポーツ施設管理論 スポーツ用品市場論 スポーツ産業論 経営戦略論 経営組織論 経営管理総論A 経営管理総論B	ヘルスマネジメント スポーツ行政論 スポーツマネジメント論 地域スポーツ論 スポーツイベント論 メディアスポーツ論 スポーツマーケティング スポーツ施設管理論 スポーツ用品市場論 スポーツ産業論 経営戦略論 経営組織論 経営管理総論A 経営管理総論B	
	<p><スポーツトレーナーコース></p> 人体構造学 救急処置 スポーツ指導論 コーチング論 生理・心理機能測定法	健康心理学 基礎運動学 トレーニングの科学的基礎 レジスタンストレーニングとコンディショニング 体力測定法 トレーニングプログラム論 トレーニング指導論 運動処方論 スポーツ栄養学 運動生理学 生体力学の基礎 知覚運動論 動作解析学 バイオメカニクス スポーツ心理学	健康心理学 基礎運動学 トレーニングの科学的基礎 レジスタンストレーニングとコンディショニング 体力測定法 トレーニングプログラム論 トレーニング指導論 運動処方論 スポーツ栄養学 運動生理学 生体力学の基礎 知覚運動論 動作解析学 バイオメカニクス スポーツ心理学	
コースの専門選択科目	<p><スポーツマネジメントコース></p> スポーツ実技（陸上競技） スポーツ実技（器械運動） スポーツ実技（体づくり運動） スポーツ実技（サッカーA） スポーツ実技（サッカーB） スポーツ実技（バスケットボール） スポーツ実技（テニス） スポーツ実技（ソフトボール） スポーツ実技（ダンス） スポーツ実技（水泳） スポーツ実技（スキー） スポーツ実技（柔道） スポーツ指導論 運動学 コーチング論 運動トレーニング論A 運動トレーニング論B 救急処置 テーピングの理論と実際 保健医療福祉論 グローバルコミュニケーション	グローバリゼーションの経済学 ペンチャービジネス論 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策論 中小企業論A 中小企業論B 日本経済論 学校保健論 公衆衛生学 健康心理学 発育発達論 図形と画像の処理 プレゼンテーション 情報社会と情報倫理 オペレーティングシステム ネットワークシステム 基礎運動学 トレーニングの科学的基礎 スポーツ心理学 スポーツ医学 スポーツ栄養学 リハビリテーション論 運動生理学 救急法実習 ストレングス&コンディショニング海外研修	グローバリゼーションの経済学 ペンチャービジネス論 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策論 中小企業論A 中小企業論B 日本経済論 学校保健論 公衆衛生学 健康心理学 発育発達論 図形と画像の処理 プレゼンテーション 情報社会と情報倫理 オペレーティングシステム ネットワークシステム 基礎運動学 トレーニングの科学的基礎 スポーツ心理学 スポーツ医学 スポーツ栄養学 リハビリテーション論 運動生理学 救急法実習 ストレングス&コンディショニング海外研修	グローバリゼーションの経済学 ペンチャービジネス論 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策論 中小企業論A 中小企業論B 日本経済論 学校保健論 公衆衛生学 健康心理学 発育発達論 図形と画像の処理 プレゼンテーション 情報社会と情報倫理 オペレーティングシステム ネットワークシステム 基礎運動学 トレーニングの科学的基礎 スポーツ心理学 スポーツ医学 スポーツ栄養学 リハビリテーション論 運動生理学 救急法実習 ストレングス&コンディショニング海外研修
			指導実習Ⅰ 指導実習Ⅱ	ストレングス・コンディショニング特講
	<p><スポーツトレーナーコース></p> スポーツ実技（陸上競技） スポーツ実技（器械運動） スポーツ実技（体づくり運動） スポーツ実技（サッカーA） スポーツ実技（サッカーB） スポーツ実技（ソフトボール） スポーツ実技（ダンス） スポーツ実技（水泳） スポーツ実技（スキー） スポーツ実技（柔道） 運動学 運動トレーニング論A 運動トレーニング論B テーピングの理論と実際 ストレッチ・スポーツマッサージの理論と実際 スポーツ社会学 簿記論 会計学基礎 スポーツトレーニング論Ⅰ スポーツトレーニング論Ⅱ 保健医療福祉論 グローバルコミュニケーション	スポーツ医学 リハビリテーション論 ヘルスマネジメント 生理心理学 公衆衛生学 発育発達論 学校保健論 応用ソフトウェア オペレーティングシステム ネットワークシステム プレゼンテーション 情報社会と情報倫理 図形と画像の処理 スポーツマネジメント論 地域スポーツ論 スポーツイベント論 メディアスポーツ論 スポーツ産業論 スポーツマーケティング スポーツ用品市場論 グローバリゼーションの経済学 救急法実習 スポーツバイオメカニクス測定法 ストレングス&コンディショニング海外研修	スポーツ医学 リハビリテーション論 ヘルスマネジメント 生理心理学 公衆衛生学 発育発達論 学校保健論 応用ソフトウェア オペレーティングシステム ネットワークシステム プレゼンテーション 情報社会と情報倫理 図形と画像の処理 スポーツマネジメント論 地域スポーツ論 スポーツイベント論 メディアスポーツ論 スポーツ産業論 スポーツマーケティング スポーツ用品市場論 グローバリゼーションの経済学 救急法実習 スポーツバイオメカニクス測定法 ストレングス&コンディショニング海外研修	スポーツ医学 リハビリテーション論 ヘルスマネジメント 生理心理学 公衆衛生学 発育発達論 学校保健論 応用ソフトウェア オペレーティングシステム ネットワークシステム プレゼンテーション 情報社会と情報倫理 図形と画像の処理 スポーツマネジメント論 地域スポーツ論 スポーツイベント論 メディアスポーツ論 スポーツ産業論 スポーツマーケティング スポーツ用品市場論 グローバリゼーションの経済学 救急法実習 スポーツバイオメカニクス測定法 ストレングス&コンディショニング海外研修
			指導実習Ⅰ 指導実習Ⅱ	ストレングス・コンディショニング特講
教養選択科目	日本史概説 文化交際史 日本文化概論 群馬の歴史と文化 スポーツと文化 教育史 ビジネス法学入門 日本国憲法 社会科学の基礎A 社会科学の基礎B 統計学の基礎 生物学基礎 化学基礎 健康とスポーツA 健康とスポーツB スポーツの科学A スポーツの科学B 海外研修 スポーツマネジメント研修 海外語学研修 国際交流プログラム 社会貢献実践 公務員試験対策ゼミA 公務員試験対策ゼミB 自然科学の基礎A 自然科学の基礎B	日本史概説 文化交際史 日本文化概論 群馬の歴史と文化 スポーツと文化 教育史 ビジネス法学入門 日本国憲法 社会科学の基礎A 社会科学の基礎B 統計学の基礎 生物学基礎 化学基礎 健康とスポーツA 健康とスポーツB スポーツの科学A スポーツの科学B 海外研修 スポーツマネジメント研修 海外語学研修 国際交流プログラム 社会貢献実践 公務員試験対策ゼミA 公務員試験対策ゼミB 自然科学の基礎A 自然科学の基礎B	日本史概説 文化交際史 日本文化概論 群馬の歴史と文化 スポーツと文化 教育史 ビジネス法学入門 日本国憲法 社会科学の基礎A 社会科学の基礎B 統計学の基礎 生物学基礎 化学基礎 健康とスポーツA 健康とスポーツB スポーツの科学A スポーツの科学B 海外研修 スポーツマネジメント研修 海外語学研修 国際交流プログラム 社会貢献実践 公務員試験対策ゼミA 公務員試験対策ゼミB 自然科学の基礎A 自然科学の基礎B	日本史概説 文化交際史 日本文化概論 群馬の歴史と文化 スポーツと文化 教育史 ビジネス法学入門 日本国憲法 社会科学の基礎A 社会科学の基礎B 統計学の基礎 生物学基礎 化学基礎 健康とスポーツA 健康とスポーツB スポーツの科学A スポーツの科学B 海外研修 スポーツマネジメント研修 海外語学研修 国際交流プログラム 社会貢献実践 公務員試験対策ゼミA 公務員試験対策ゼミB 自然科学の基礎A 自然科学の基礎B
自由科目			インターンシップ	

ディプロマポリシー

- (1)「スポーツマネジメント」「スポーツトレーナー」「柔道整復師」及び「救急救命士」の分野の学修に基づき、スポーツの現場等で活躍できる理論的、実践的な知識を有する。
- (2)様々なビジネスの現場において必要とされる実践的な能力を有する。
- (3)修得した知識・技能をもとに、論理的に考える力やコミュニケーション力を活用することで、社会人としての高い基礎力を有する。



ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース・カリキュラムツリー

	1年	2年	3年	4年
コースの必修科目	フレッシュャーズゼミA フレッシュャーズゼミB スポーツ概論 コンピュータリテラシA 経営学基礎 必修英語A	教養ゼミ トップマネジメント講話	専門ゼミA 専門ゼミB	卒業研究
コースの専門基礎分野科目	人体構造学Ⅰ 人体構造学Ⅱ 人体機能学Ⅰ 人体機能学Ⅱ 運動学Ⅰ 生理・心理機能測定法 保健医療福祉論 柔道整復の理念と歴史 柔道実技 医療倫理学 救急処置	人体構造学実習 人体機能学実習 養育発達論 スポーツ医学 レジスタントトレーニングとコンディショニング スポーツ栄養学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 公衆衛生学Ⅰ 救急法実習 公衆衛生学Ⅱ 学校保健論	病理学概論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ リハビリテーション医学 外科学概論 運動器疾患と柔道整復術	関係法規 運動学Ⅱ
コースの専門選択科目	柔道整復学総論Ⅰ スポーツトレーニング論Ⅰ 柔道整復学総論Ⅱ スポーツトレーニング論Ⅱ 臨床柔道整復学Ⅰ 柔道整復実技Ⅰ(必修)	スポーツリハビリテーション概論 臨床柔道整復学Ⅱ 臨床柔道整復学Ⅲ 柔道整復実技Ⅱ(上肢①) 柔道整復実技Ⅲ(上肢②) 外傷予防トレーニング指導実習Ⅰ 外傷予防トレーニング指導実習Ⅱ	成長期スポーツ傷害 スポーツ傷害と画像診断 臨床柔道整復学Ⅳ 臨床柔道整復学Ⅴ スポーツ傷害Ⅰ スポーツ傷害Ⅱ 柔道整復演習Ⅰ 柔道整復演習Ⅱ 柔道整復実技Ⅳ(下肢①) 柔道整復実技Ⅴ(下肢②) スポーツリハビリテーションⅠ スポーツリハビリテーションⅡ 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	測定評価学 柔道整復演習Ⅲ 柔道整復演習Ⅳ トレーニング演習Ⅰ トレーニング演習Ⅱ 測定評価学実習
教養選択科目	テーピングの理論と実際 ストレッチ・スポーツマッサージの理論と実際 経済学基礎 マーケティング基礎 情報社会とコンピュータ 統計学の基礎 生物学基礎 化学基礎 スポーツ実技(陸上競技) スポーツ実技(球技運動) スポーツ実技(体づくり運動) スポーツ実技(水泳) スポーツ実技(バスケットボール) スポーツ実技(サッカーA) スポーツ実技(サッカーB) スポーツ実技(テニス) スポーツ実技(ダンス) スポーツ実技(スキー) スポーツ実技(ソフトボール) スポーツ社会学 運動トレーニング論A 運動トレーニング論B コーチング論 スポーツ指導論 健康とスポーツA 健康とスポーツB スポーツの科学A スポーツの科学B 日本史概論 日本文化概論 群馬の歴史と文化 スポーツと文化 ビジネス法入門 日本国憲法 海外研修 スポーツマネジメント研修 国際交流プログラム 社会貢献実践 公務員試験対策ゼミA 公務員試験対策ゼミB			
	生体力学の基礎 トレーニングの科学的基礎 スポーツマネジメント論 スポーツ心理学 運動生理学 バイオメカニクス 知覚運動論		選択英語A 選択英語B 選択フランス語A 選択フランス語B スポーツ産業論 地域スポーツ論 リハビリテーション論 動作解剖学 基礎運動学 運動処方論	ストレngths・コンディショニング特講
自由科目	インターンシップ			

ディプロマポリシー

- (1)「スポーツマネジメント」「スポーツトレーナー」「柔道整復師」及び「救急救命士」の分野の学修に基づき、スポーツの現場等で活躍できる理論的、実践的な知識を有する。
- (2)様々なビジネスの現場において必要とされる実践的な能力を有する。
- (3)修得した知識・技能をもとに、論理的に考える力やコミュニケーション力を活用することで、社会人としての高い基礎力を有する。



ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科救急救命士コース・カリキュラムツリー

	1年	2年	3年	4年
コースの必修科目	フレッシュアーズゼミA フレッシュアーズゼミB スポーツ概論 コンピュータリテラシA 経営学基礎 必修英語A	教養ゼミ トップマネジメント講話	専門ゼミA 専門ゼミB 消防職員採用試験対策講座A 消防職員採用試験対策講座B	卒業研究
コースの専門基礎分野科目	解剖学 生理・心理機能測定法 運動生理学 スポーツ栄養学 病理学概論 テーピングの理論と実際 ストレッチ・スポーツマッサージの理論と実際 医療倫理学 救急医療行政	生体力学の基礎 バイオメカニクス スポーツバイオメカニクス測定法 知覚運動論 動作解析学 運動制御論 生化学・微生物学 リハビリテーション論 運動処方論 スポーツ医学 ヘルスマネジメント 公衆衛生学 学校保健論 保健医療福祉論		関係法規
コースの専門分野科目	医学概論 救急処置演習A-Ⅰ 蘇生処置演習 救急学演習 災害マネジメント演習 救助・防災演習	外科学概論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 脳神経外科学・眼科学・耳鼻咽喉科学・口腔外科学 産婦人科学・精神医学 小児科学 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 救急処置演習A-Ⅱ 外傷救急処置演習	救急医学 予防医学 外傷学総論 外傷学各論 救急処置演習A-Ⅲ 救急車内活動演習 救急処置演習B-Ⅰ 救急処置演習C-Ⅰ	薬理学 災害医学 救急処置演習A-Ⅳ 特定行為処置演習 救急処置演習A-Ⅴ 救急処置演習B-Ⅱ 救急処置演習C-Ⅱ
教養選択科目	経済学基礎 マーケティング基礎 情報社会とコンピュータ 生物学基礎 化学基礎 スポーツ実技(体づくり運動) スポーツ実技(器械体操) スポーツ実技(陸上競技) スポーツ実技(水泳) スポーツ実技(水難救助) スポーツ実技(バスケットボール) スポーツ実技(サッカー) スポーツ実技(テニス) スポーツ実技(ダンス) スポーツ実技(スキー) スポーツ実技(柔道) スポーツ実技(ソフトボール) スポーツ社会学 運動トレーニング論A 運動トレーニング論B コーチング論 スポーツ指導論 健康とスポーツA 健康とスポーツB 統計学の基礎 スポーツの科学A スポーツの科学B 日本史概説 文化交際史 日本文化概論 群馬の歴史と文化 スポーツと文化 ビジネス法入門 日本国憲法 海外研修 スポーツマネジメント研修 国際交流プログラム 社会貢献実践 公務員試験対策ゼミA 公務員試験対策ゼミB 運動学 医療情報学 医療保険論			
	トレーニングの科学的基礎 選択英語A 選択英語B スポーツ実技(河川救助) スポーツ実技(山岳救助) スポーツマネジメント論 スポーツ心理学 スポーツ産業論 スポーツ施設管理論 スポーツ行政論 地域スポーツ論 発育発達論 レジスタントレーニングとコンディショニング ミクロ経済学 マクロ経済学			
自由科目				ストレングス・コンディショニング特講
	インターンシップ			

ディプロマポリシー

- (1)「スポーツマネジメント」「スポーツトレーナー」「柔道整復師」及び「救急救命士」の分野の学修に基づき、スポーツの現場等で活躍できる理論的、実践的な知識を有する。
- (2)様々なビジネスの現場において必要とされる実践的な能力を有する。
- (3)修得した知識・技能をもとに、論理的に考える力やコミュニケーション力を活用することで、社会人としての高い基礎力を有する。



生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を形成し、かつ高度な専門的知識・技術・科学的判断力、幅広い視野を持ち、主体的な看護を展開することにより、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材を育成する。

			ディプロマポリシー					教育課程別の分類									
			履修年次	1. 生命の尊厳を理解し、倫理観と責任感、幅広い視野を持った豊かな人間性を養う。	2. 専門的知識、技術を修得し、科学的根拠に基づいた看護を主体的に実践できる能力を養う。	3. 保健・医療・福祉制度を統合的に理解し、地域の関連領域の人々と連携しうる管理調整能力を養	4. 国際的な視野を持って活動できる能力を養う。	5. 自ら研究する姿勢を持ち、看護学及び関連する学問領域の発展に貢献できる能力を養う。	習熟制	習熟制+保健師	習熟制+保健師+検定	習熟制+検定	習熟制+保健師+検定	習熟制+検定	習熟制+保健師+検定		
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
人としての教養	人間の理解	教育学	1	○													
		社会学概論	1	○													
		生命倫理	1	○													
		看護教育入門	1	○													
		臨床生化学	1	○				○									
	生活文化	人体の細胞生物学	1	○													
		国際関係論	1~4	○				○									
		スポーツ論と実践Ⅰ	1	○													
		スポーツ論と実践Ⅱ	1	○													
		コンピュータリテラシー	1	○													
	言語	情報通信技術の基礎	1	○													
		言語表現法	1	○													
		日本史	1	○													
		文化論	1	○													
		英検	1	○													
看護の対象の理解	英語Ⅰ	1					○										
	英語Ⅱ	1					○										
	看護英語	1					○										
	中国語	1~4					○										
	人間の正常	1	○														
	社会	人体の構造と機能Ⅱ	1	○													
		人体の構造と機能Ⅲ	1	○													
		人体の構造と機能Ⅳ	1	○													
		人体の構造と機能Ⅴ	2	○													
		栄養学Ⅰ	1	○													
		微生物学	1	○													
		解剖学	1	○													
		疾病の成り立ちと回復	1	○													
		疾病の治療と看護Ⅰ	1	○													
		疾病の治療と看護Ⅱ	1	○													
疾病の治療と看護Ⅲ		1	○														
疾病の治療と看護Ⅳ		2	○														
疾病の治療と看護Ⅴ		2	○														
疾病の治療と看護Ⅵ		2	○														
疾病の治療と看護Ⅶ		2	○														
疾病の治療と看護Ⅷ	2	○															
疾病の治療と看護Ⅸ	2	○															
臨床検査学	2	○															
臨床薬理学	2	○															
臨床心理学	2	○															
公衆衛生学	2	○															
保健統計学	3	○															
疫学	3	○															
社会保障論	2	○															
保健医療福祉行政論	3	○															
福祉学概論	3	○															
看護学概論	1	○															
看護の基礎	看護コミュニケーション	1	○														
	看護技術論	1	○														
	看護共通技術	1	○														
	ヘルスアセスメント	1	○														
	生活行動援助技術	1	○														
	看護過程論	2	○														
	診療関連技術	2	○														
	看護体験実習	1	○														
	受け持ち看護実習	2	○														
	地域・在宅看護学概論	2	○														
	地域・在宅生活支援技術	2	○														
	地域・在宅生活支援活動論	2	○														
	家族看護学	1	○														
	ガミナルケア論	3	○														
	地区障害実習	1	○														
地域・在宅看護学実習	3	○															
成人看護学概論	1	○															
成人看護学方法論	2	○															
成人看護学看護過程論	3	○															
成人看護学援助技術	3	○															
成人看護学	1	○															
成人看護学	2	○															
慢性期成人看護学実習	3	○															
急性期成人看護学実習	4	○															
高齢者看護学概論	1	○															
認知症の理解	1	○															
高齢者看護学方法論	2	○															
高齢者看護学実習	3	○															
小児看護学概論	1	○															
小児看護学方法論	2	○															
小児看護学援助技術	2	○															
小児看護学実習	3	○															
母性看護学概論	1	○															
プロダクティブヘルズ	2	○															
母性看護学援助論	2	○															
母性看護学実習	3	○															
精神看護学概論	2	○															
精神保健論	2	○															
精神看護学方法論	3	○															
精神看護学実習	3	○															
公衆衛生看護学概論	2	○															
健康教育論	2	○															
公衆衛生看護学活動展開論	3	○															
公衆衛生看護学管理論	3	○															
健康危機管理論	3	○															
産業保健論	3	○															
学校保健論	3	○															
産業・学校保健実習	4	○															
地域保健看護実習	4	○															
リハビリメント論	2	○															
災害看護論	2	○															
看護管理概論	3	○															
看護管理方法論	4	○															
チーム医療論	3	○															
看護倫理	3	○															
看護と癒し	2	○															
看護と環境	2	○															
リハビリテーション看護	3	○															
先端医療と看護	3	○															
国際看護論	3	○															
研究論	3	○															
看護研究	4	○															
災害看護実習	2	○															
看護管理実習	4	○															
統合実践看護実習	4	○															

必修科目 選択科目

この他専門修得科目あり この他専門修得科目あり

学校法人 学 文 館
上 武 大 学
データサイエンスセンター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、上武大学データサイエンスセンター（以下センターという。）の組織及び運営等について、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、以下に掲げる事業を推進・支援する。

- 一 AI戦略2019を受け、本学における初級レベルの数理・データサイエンス・AI教育とその点検・評価に係る事項
- 二 前号に必要となる施設設備、教育機器備品類などの検討
- 三 その他本学の数理・データサイエンス・AI教育に関連する事項等

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は本学の専任教員のうちから、常任理事会の議を経て理事長が任命する。
- 3 センター長はセンターの業務を統括する。
- 4 センター長の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

(センターの組織)

第4条 センター長のほかセンターの構成員については常任理事会の議を経て理事長が任命する。

(会議)

第5条 第2条の目的を達成するため、センターにおいて運営会議（以下「会議」という。）を開催する。

- 2 会議はセンター長が議長となり召集する。

(報告)

第6条 センター長は会議の結果を事務局長に報告する。

(細則)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの運営のため必要な細則は別に定める。

附 則

この規程は令和5年4月1日から施行する。

学校法人 学文館
上武大学
内部質保証委員会規程

(目的)

第1条 この規程は上武大学内部質保証会議規程第6条により設置する、上武大学内部質保証委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営について必要な事項を定める。

(委員会の職能)

第2条 委員会は次の各号に関する原案等を作成し、内部質保証会議に報告する。

- 一. 内部質保証(IRを含む)に関する方針および手続
- 二. 自己点検・評価の計画
- 三. 全学的な観点による自己点検・評価およびその結果に基づく改善・向上の支援
- 四. 自己点検・評価報告書の作成と結果の公表
- 五. 外部評価に関する対応等
- 六. その他委員会の目的を達成するために必要な事項

(構成員の任命)

第3条 委員長、副委員長を含む委員会の構成員は、常任理事会の議を経て理事長が任命する。

(委員長等)

第4条 委員長は委員会を招集し議長となる。

- 2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。
- 3 委員会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要があるときは委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(任期)

第5条 委員会の構成員の任期は原則として1年とする。ただし、補充された委員等の任期は前任者の残任期間とする。

- 2 委員会の構成員の再任は妨げない。

(所掌)

第6条 委員会の事務は大学本部事務局が所掌する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、原則として内部質保証会議の議を経て、常任理事会で決定する。

附 則 この規程は令和4年12月1日から施行する。

大学等名	上武大学
教育プログラム名	データサイエンス教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 6年度

取組概要 ○ **リテラシー 2024年度申請予定**

【プログラムの目的】

- ・デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、企業活動、地域活動の場で使いこなすことができる知識・技能を身につけ、データ駆動型社会で活躍できる人材の育成

【身に付けられる能力】

- ・デジタル社会において求められる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識と技術
- ・学んだ知識を使う際に、エビデンスに基づき倫理的配慮のもと人間中心の適切な判断と説明ができる

【開講されている科目の構成】

- ビジネス情報学部
「情報社会とコンピュータ」 (2単位)
- 看護学部
「情報通信技術の基礎」 (1単位30時間)

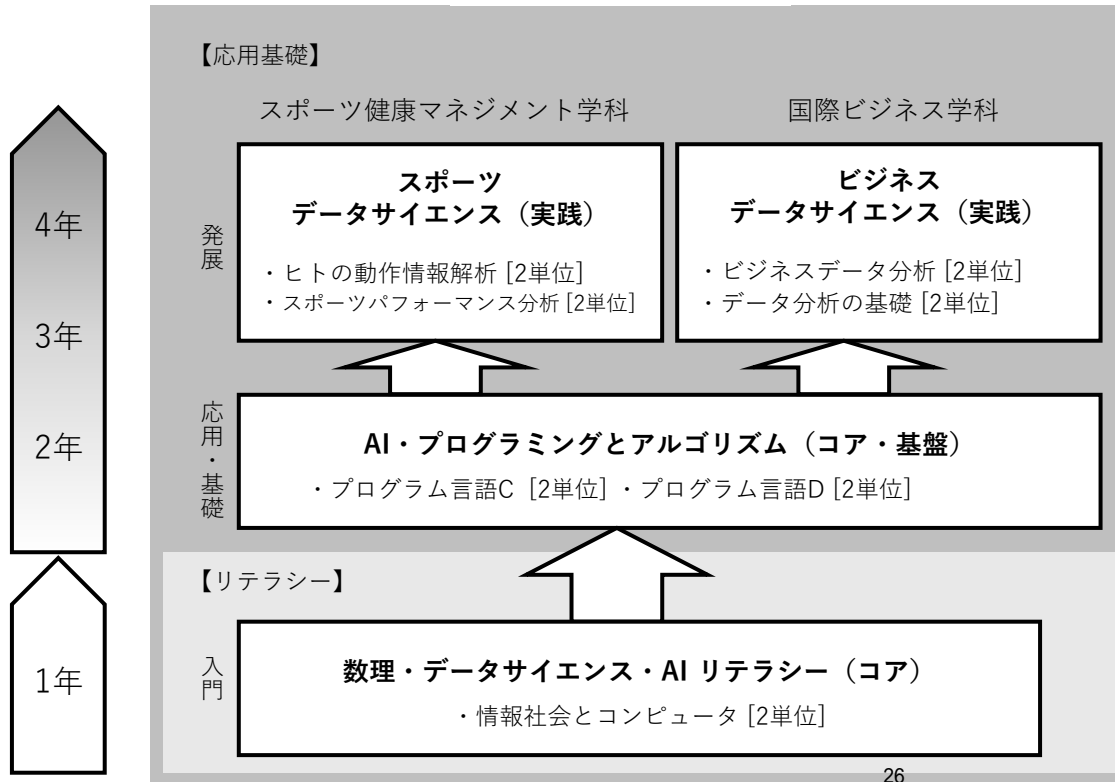
【修了要件】

- ビジネス情報学部
「情報社会とコンピュータ」の修得
- 看護学部
「情報通信技術の基礎」の修得

【実施体制】

- プログラムを改善・進化させるための体制
・上武大学データサイエンスセンター
- 自己点検・評価を行う体制
・内部質保証委員会
・上武大学データサイエンスセンター

ビジネス情報学部



看護学部

【リテラシー】

- 数理・データサイエンス・AI リテラシー
・情報通信技術の基礎 [1単位30時間]